



2019 (令和元) 年9月2日 (月)

藤 棚

第372号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

ひそかに訪れる秋の気配に

校長 小川義男

「今年は、蝉の声に力がないなあ」と思っているうちに、秋の気配が近づいてきた。先日、山梨を訪れたとき、山深い地域だからであろうか、昔ながらの、元気な蝉の声を聞くことができた。蝉さえおとなしくなる猛暑なのかも知れぬが、うち続く気候変動が憂慮される。

報道によると、水難事故が多かったようである。交通事故もかなりな数に上る。

本校生徒からは、水難事故、交通事故の話を開かない。離岸流による被害もない。何よりのことである。中学生諸君、高校生諸君の用心深い生活姿勢に心から敬意を表する。

私は熱帯の国が好きだが、この地域の人々は、四季というものを知らない。地軸が傾いていることが季節発生の原因なのだが、北緯、南緯、共に約 23.5 度の範囲内では、事実上季節の変化は起こらない。温帯に住む我々は、春の気配、猛暑の夏、味わい深い秋、身の引き締まるような冬を味わう事ができる。温暖化が、この四季に影響を及ぼしているようだが、炭素燃料の消費を控え、緑深く味わいのある地球環境を守って行きたいものである。学園祭も近い。安全で楽しい「狭丘祭」を楽しむ事にしよう。

大学進学準備は、三年生だけでなく中高生全体が考えておかねばならないことである。テレビロケで熊本を訪れた時、校庭の一隅に、草に埋もれた石碑があるのを、本仮屋さんが見つめて来た。若いから、珍しいものを見つけると、直ぐ私に尋ねてくれる。「先生、これは何ですか。」

草を分けて見ると、「秋はふみ 我に天下の志 漱石」と掘られている。

秋は落ち葉を踏む というのと文を読むというのをかけた言葉なのであろう。帝大を出ているだけに、年若き漱石にも「天下の志」があったのであろう。私と本仮屋さんは、暫く若き日の漱石を思って感慨に浸った。

そうだ。「秋は文」だ。若く、前途ある諸君には英語や数学だけでなく、読書する心を大切にしたい。

私は、高校一年の時、先輩に勧められて、ウエルズの「世界文化史大系」を読んだが、まだ幼く、その本当の深さを理解することができなかった。後年、それが、世界の未来を物語る素晴ら

しい文献であることが分かった。当時の先生は、そこまで立ち入って指導してくれるというよう
なことはなかった。本校の理科指導陣は、きら星のような俊才の集まりである。諸君自身が、個
人であれ、小グループであれ、このような俊才の指導を受けやすいような場を作ってはどうかと
思う。

日韓友好を深めよう

徴用工問題 慰安婦問題等をきっかけに、日韓関係が著しく悪化している。

日韓併合を契機に、朝鮮人は日本人とされた。当時の政府は、京城に京城帝国大学を作ったし、
陸軍士官学校を卒業した朝鮮人の陸軍少将もいた。台湾の台北帝国大学と並んで、「植民地」に
帝大をつくったのは、世界で日本くらいのものではないだろうか。台湾の人々は、今も親日的だ
が、韓国は少し違う。徴用工問題などと言うが、韓国の前政権との間で解決済みだったのが、現
政府の手により、悪くなっている。いずれも、七十年以上昔の話だが、当時、我が国の安倍総理
は、生まれてさえいなかったのである。なかなか難しい隣国と言えるかも知れない。

トランプ氏の北朝鮮に対する「友好精神」は、北の支配者に、「そうか、アメリカに届くミサ
イルをトランプは、そんなに恐れているのか」という印象を与えたのではないか。「中距離ミサ
イルなら良い」と認めているのだから、北の支配者は、一層確信を強めていることであろう。

北の民衆は、肉や魚など、充分食べているのだろうか、私などは思うが、ミサイル一基打ち
上げるのに、米、肉、魚など、どれほど買えるのだろうか。かえってミサイルは、彼の存立基盤を
危うくするのではないだろうか。

北朝鮮は、大東亜戦争の末期、日ソ不可侵条約を一方向的に破棄したスターリンのソ連によって
つくられた共産主義国家である。当時は国連軍がいたので、38度線が南北の国境になった。

北朝鮮は、突如大軍で38度線を越え南に進入した。これが朝鮮戦争である。

奇襲だったから、マッカーサーの国連軍は、敗退に敗退を重ね、釜山から追い落とされようと
した。私の高校三年の時である。

北の勝利となりそうなところ、天才マッカーサーは、上陸が絶対に不可能とされる浅瀬の仁川
に奇襲上陸し、情勢は一変した。

その後も戦乱は続き、国連軍が北に攻め上ろうとするとき、前年に革命を終わった中華人民共
和国が、数百万の規模で、「義勇軍」と称して朝鮮に攻め入った。

以上、朝鮮戦争の概略を述べた。

韓国、北朝鮮、アメリカの関係を考えるとき、このアウトラインだけは忘れてはならない。

マッカーサーの指導に任せていれば、情勢は一変しただろうが、副大統領から、ルーズベルト
大統領の死の折に、合衆国憲法の定めにより、副大統領から大統領に昇格したトルーマンは、マ
ッカーサー将軍を罷免した。

このような国際情勢の推移を知り、巨視的観点から分析するのでなければ、朝鮮情勢は分から
ない。

それにしても、韓国の人々との友好関係だけは長く維持したいものである。